

2015年11月18日  
(一財)日本船舶技術研究協会  
(一社)日本造船工業会



**日本の主導で世界的造船産業界団体が設立されます!**

**—ASEF の設立について—**

- 2015年11月26日、中国江蘇省南通市において、世界の造船産業界をけん引する日本、韓国、中国を含め、世界新造船建造量の90%以上を占める9ヶ国の造船工業会等が加盟する世界的造船産業界団体 ASEF (Active Shipbuilding Experts' Federation) が設立されることとなりました(同日開催される ASEF 第1回総会により正式に設立されることとなっています。)
- ASEF は、造船・船舶技術に関する協力等を通じて、国際海事産業の健全な発展並びに世界の海上安全・海洋環境保護等の促進に貢献することを目的としています。
- 国際海事機関 (IMO) の重要課題に係る議論に参加し、造船産業界の意見を述べるのが、ASEF の最も重要な機能です。特に、設立3年後には、IMO における諮問的地位の取得申請をしたうえで、IMO の議論に正式に参加し、造船産業界/造船国の意向や懸念や提案が IMO の議論に適切に反映され、合理的な条約/規則が策定されるよう、積極的且つ直接的に貢献することを予定しております。
- 第1回総会においては、ASEF 初代会長に村山 滋氏 ((一社)日本造船工業会会長、川崎重工業株式会社社長) の就任が、また、ASEF 初代事務局長には岩本 洋氏 (ジャパン・マリンユナイテッド企画管理本部参与) の就任とともに、木内 大助氏 ((一社)日本造船工業会専務理事) の ASEF 初代理事への就任が決定される予定です。なお、第1年次の事務局を(一社)日本造船工業会内に置くことも決定される予定です。
- ASEF の設立にあたっては、2007年以來、(公財)日本財団から約9千7百万円の支援のもと、(一財)日本船舶技術研究協会が、(一社)日本造船工業会と連携し、他国の造船工業会等と累次にわたる交渉を重ねるなど、暫定事務局として主導的な役割を果たして来ました。ASEF 設立後1年間の事務局機能については(一社)日本造船工業会に引き継がれることになっています。

本件連絡先

(一財)日本船舶技術研究協会 斎藤 TEL03-5575-6426  
(一社)日本造船工業会 棟近 TEL03-3580-1564

(参考資料)

## ASEF の概要

1. 名称：Active Shipbuilding Experts' Federation (ASEF)
2. 設立年月日・場所（予定）：2015年11月26日（第1回総会）・中国江蘇省南通市
3. 機能：
  - ・IMO、ISO、IACS の議題を含む技術的事項について、メンバー間の意見交換
  - ・IMO、ISO、IACS における議題に対し貢献し、意見を述べる（IMO オブザーバーステータスの取得）
  - ・他国際産業界団体との交流発展
  - ・フォーラムの開催
4. 組織
  - (1) 参加国・組織<sup>1</sup>：日本造船工業会、韓国海洋造船工業会、中国船舶工業行業協会、インド造船工業会、インドネシア造船海洋工業会、マレーシア海事産業会、タイ造船修繕工業会、コロンボドックヤード（スリランカ）、ヴェトナム造船企業体
  - (2) 会長・副会長（任期1年で、翌年ローテーション）：  
初代会長：村山 滋氏（日本）  
初代副会長：Young-Ju Suh 氏（韓国海洋造船工業会副会長）  
同： Minjun Chen（陳民俊）氏（中国船舶工業行業協会常務副会長）
  - (3) 事務局長：岩本 洋氏（日本）
  - (4) 本部所在地：設立後1年間は日本造船工業会内に置く。2年目は韓国、3年目は中国に移設予定。その後の本部場所については3年目終了時まで決定。
  - (5) ホームページ（11月26日開設予定）：<https://asef2015.com>

(以上)

---

<sup>1</sup> ASEF 憲章において、代表的な造船工業会、又は造船工業会が存在しない国においては代表的な造船所が ASEF に参加できることとなっている。